

図書紹介



著者 岡部光明

書名 人間性と経済学-社会科学の新しいパラダイムをめざして-

出版社 日本評論社

出版年 2017年2月10日

概要 経済学は「社会科学の女王」と言われることがある。これは、人間に関する単純な前提（利己主義的かつ合理的に行動する個人が消費増大を目的として行動する）を置いて理論の精緻化、体系化を進めてきたことによる。しかし、そこでは人間の他の重要な側面（幸福の追及、利他主義的動機の併存、人的きずな等）が全く考慮されていない。本書は、より広い「人間性」を前提にした場合の経済学ないしそれをはみ出した社会科学を構想することを試みた研究書である。

日本帝国の崩壊

人の移動と地域社会の変動

柳沢 遼
倉沢愛子
編著



著者 柳沢遼・倉沢愛子編著

書名 日本帝国の崩壊—人の移動と地域社会の変動

出版社 慶應義塾大学出版会

出版年 2017年7月

概要 本書は、戦時期の日本本国と植民地・滋賀市アジア占領地の地域社会の変動を、在留日本人の動向に焦点を当てて考察した研究書である。「日本帝国」の解体過程を、生存の場の縮小からとらえ返した本書は、日本の帝国主義としての敗北がもたらす支配側と被支配側の人間的荒廃を照射している。



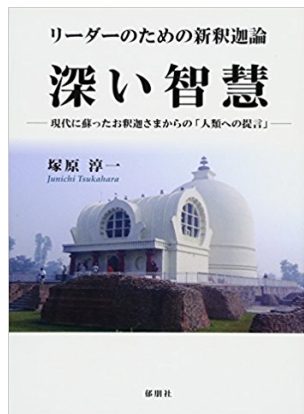
著者 古沢広祐

書名 食べるってどんなこと? あなたと考えたい命のつながりあい

出版社 平凡社

出版年 2017年11月23日

概要 微生物から地球環境、宇宙まで、食がつかぐ世界の姿を質問形式でわかり易く解説しています。農業と人間の関係、食べものはどこから来る、食生活の歴史の変遷、どんな矛盾や弊害・リスクがあるかを多角的に解明しています。さらに、食べ方で未来が変わる、広い視野で考える（原発事故後の食）、食がもつ潜在的な力などにふれました。中学生の質問箱シリーズの1冊ですが、内容は大学生・一般向けです



著者 塚原淳一

書名 リーダーのための新釈迦論 深い智慧—現代に蘇ったお釈迦さまからの「人類への提言」—

出版社 郁朋社

出版年 2018 年 2 月 9 日

概要 確固たる『価値観』を見失ったままに漂流し混迷と混乱を増す人間世界を正すために、人類最初で最高の哲学者・思想家とされるお釈迦さまが現代に蘇って、新しい『人類共通の思想』創出を含む7項目を提言。特に、社会と人々に大きな影響を与えるリーダーが持つ『価値観』は重要であり、政治・経済界と知識人などのリーダー層、そして「リーダーの卵」と「積極的な人生」を目指す若手層に向けて書かれた対話風物語形式の「啓蒙の書」。



著者 古沢広祐

書名 みんな幸せってどんな世界 共存学のすすめ

出版社 ほんの木

出版年 2018 年 3 月 30 日

概要 みんな幸せに生きる共存世界、その道筋を探ります。困難な時代をどう読み解き、未来を展望するか、複雑な人間世界を究明。とくに、持続可能な開発・発展をめぐる歴史的動向、国連新目標（SDGs）の意義を、わかり易く解説しています。世界が抱える諸問題について、多面的な角度から掘り下げて、混迷する現代世界と日本の動向を立体的・重層的に解明、テキスト利用としてもお薦めします。



著者 上柿崇英, 増田敬祐, 吉田健彦

書名 『現代人間学・存在論研究』第1期第3号

出版者 大阪府立大学 環境哲学・人間研究所 現代人間学・存在論研究部会

出版年 2018 年 03 月 31 日

概要 本誌ではこれまで、“人間の学、としての新たな人間学を希求するため、新たな理論的枠組みの構築と展開を試みてきました。人間が生きるということは、意のままにならない他者とともに生きていくということを意味します。本号では「信頼」をテーマとし、“負担、や“抑圧、という、他者と共に在る以上避けられない宿命を負いつつもその信頼がなぜ可能だったのか、そしてそれは人間の本質にとっていかなる意味を持っていたのかを、各執筆者それぞれの立場から探求しています。